

患者の皆様への権利に関する宣言

当院では、患者の皆様への尊厳や人間性が尊重され、パートナーシップを強化し、以下の権利が守られることを宣言します。

- 1. 良質な医療を受ける権利**
患者の皆様は、差別されることなく適切な医療を受ける権利を有します。
- 2. 選択の自由の権利**
患者の皆様は、医師や病院或いは保健サービス施設を自由に選択し、変更することができます。また、いかなる段階においても別の医師の意見を求める権利を有します。
- 3. 自己決定権**
患者の皆様は、自分自身に関わる自由な決定を行う権利を有し、それに必要な情報を得る権利を有します。
- 4. 意思に反する処置**
患者の皆様への意思に反する診断上の処置或いは治療は、原則的に行いません。
- 5. 情報に関する権利**
患者の皆様は、医療上の自己の情報を得る権利を有します。また、知らされずにおく権利と自分に代わって自己の情報の提供を受ける人を選択する権利も有します。
- 6. 守秘に関する権利**
診療の過程で得られた患者の皆様への個人情報は、全て保護されます。
- 7. 尊厳を得る権利**
患者の皆様は、いかなる状態にあっても人格的に扱われ、尊厳をもってその生を全うする権利を有します。

潤和会記念病院 院長 濱川 俊朗

記念病院 理念

「人間愛」

記念病院 基本方針

1. 患者様の人権と意思を尊重し、患者様の立場に立った医療の提供
2. 地域の中核的病院として、専門的かつ高度な医療を実践
3. チーム医療を推進し、より良い医療の希求
4. 豊かな人間性を備えた医療人の育成
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境

みなさんは、「球春到来」という言葉を聞いたことはありますか？2月1日からキャンパスインと同時にチームが新たなシーズンへ向かって動き出すため「球春到来」と表現されるそう、野球ファンにとっては好きな言葉かもしれません。

今年度はプロ野球の複数球団だけでなく、侍ジャパンもWBCに向けての強化合宿が宮崎で行われました。

私は、野球に無縁で体育の授業で少し触れるぐらいだったのでほとんどルールを知りませんでした。そんな中、家族で唯一野球観戦が趣味の姉と甥に連れられ最終日に清武にあるSOCK KENスタジアムに行きました。

もう少いで義兄のいる東京に帰ってしまう姉と甥とは簡単に会えなくなり、来年度の「球春到来」宮崎に一人で帰ってくるそうなのでもうすでに待ち遠しいなと感じています。



潤 うるおい
2023年
4月1日発行

No.
92

一般財団法人 潤和リハビリテーション振興財団
潤和会記念病院
院長 濱川俊朗
〒880-2112 宮崎市大字小松1119番地
TEL0985-47-5555 FAX0985-47-8558
<https://www.junwakai.com/>



院長就任のご挨拶

潤和会記念病院院長 濱川 俊朗

2023年4月より潤和会記念病院院長職を拝命いたしました濱川俊朗（はまかわ としろう）と申します。宮崎大学（旧宮崎医科大学）を卒業し、当時、高崎真弓教授の主催される宮崎大学附属病院麻酔科医局に入局しました。麻酔科医として研鑽を積み、その後、集中治療医学と救急医学を専門としています。モットーは現実的かつ合理的な楽観主義者です。どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、潤和リハビリテーション振興財団潤和会記念病院は1980年に大野英男先生により開設されました。1982年には宮崎リハビリテーション学院を開校しています。以後、時代と社会環境の要請に合せて、急性期病棟、集中治療室、脳卒中ケアユニット、回復期病棟、療養病棟、緩和ケア病棟を持つ全国的にも珍しいケア・ミックス型病院となっています。

ケア・ミックス型病院が通常の病院と異なっている点は、救急医療や手術などの急性期医療、リハビリテーションなどの回復期医療、緩和ケアの終末期医療など様々な段階の医療サービスを1つの病院で提供することが出来ることです。そのために必要な最新の器材と、専門的知識を持つ各診療科の医師と看護師を含め、技師、事務職などの人員が配置されています。

当院は脳脊髄神経疾患の超急性期～急性期の治療、回復期リハビリテーションに力を入れており、高い評価を頂いています。また、2022年10月に日本脳卒中学会より、県内で唯一の一次脳卒中センターコア（PSCコア）の認定を頂いています。

また一方で、当院は新型コロナウイルス感染症重点医療機関でもあり、新型コロナウイルス感染症に罹患した方の入院治療を2019年4月より行ってきました。今後も新型コロナウイルス感染症などの新興感染症に対応できる病院を維持します。

近年、病院と病院間や病院と施設間などの地域連携の重要性が広く認識されています。当院では地域の各病院や開業医の先生方との連携を深め、患者支援室の医療相談員より、入退院前後の治療や生活などの相談を行っています。入院前後の治療を含め、全てを総合し安心して医療を受けられる体制を構築しております。

当院の理念は「人間愛」です。「人間愛」とは、全てのモラルの根源であり、人間性を尊重し、その尊厳を守り慈しみ優しく思いやることだと信じます。当院で医療に従事する全ての職員と力を合わせ、私どもは人間愛に基づく医療の提供を追求していきたいと考えています。まだまだ足りない部分もありますが、地域にとって役に立ち頼りになる病院を目指し努力してまいります。

「排尿自立指導」とは??

当院でも取り組んでいます！ 泌尿器科 藤田 直子

排尿は人間の尊厳にかかわる行動であり、どのような方法であっても自力で完結でき、排尿が自立できることが基本的な人間の欲求です。人の尊厳の維持に大きな意味を持ち、高齢者や介護者のQOLにとって大きな影響を及ぼします。

排尿の自立を促すためには、早期の尿道カテーテル抜去と適切な排尿ケアの実施が必要です。

排尿ケアとは、排尿日誌と残尿測定による下部尿路機能の評価と下部尿路機能に基づいた排尿用具の適切な選択と使用(おむつなども含め)、リハビリテーションによる早期からの排尿行動の自立支援です。(下部尿路とは:膀胱から尿道までのこと)

これらを踏まえ、日本老年泌尿器科学会・日本排尿機能学会と日本損傷・オストミー・失禁管理学会が共同で提案し、2016年度の診療報酬改定で「排尿自立指導料」が新規に保険収載され、2020年度に外来でも継続的な指導を行えるよう見直され、「排尿自立支援加算」と「外来排尿自立指導料」に改編されました。多職種からなる排尿ケアチームが、下部尿路機能の回復のために、週1回、排尿ケア・排尿自立支援を行うことができます。当院でも2017年度より排尿ケアチームを設置しました。

現在は、排尿ケアチーム算定要件の講習を修了した看護師4名と皮膚・排泄ケア認定看護師1名を軸として、病棟看護師や薬剤師も連携し排尿ケアに取り組んでいます。またADL指導に直結する理学療法士や作業療法士とも連携することにより、生活動作面からも排尿ケアを意識した取り組みを行っています。

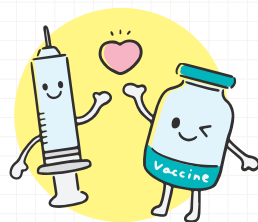
当院では尿道カテーテル抜去後に下部尿路症状がある患者に対し、病棟看護師が残尿測定と排尿日誌の記録を元に下部尿路症状を評価し、排尿ケアを行い、その中でも、排尿ケアに難渋する症例に対して排尿ケアチームが介入し、病棟看護

師と共同して包括的な排尿ケアを立案・実施しています。(当院では2023年度、のべ101名介入し泌尿器科領域(骨盤内手術含む)56名、脳血管疾患領域17名でした。)

「排尿自立指導に関する診療計画書」の評価を元に行われた他施設の研究ではありませんが、排尿自立指導による排尿ケアは排尿動作や下部尿路症状を改善させることが明らかになっています。

ただ、「整形外科・脳血管障害」患者では下部尿路症状が改善する一方で、排尿動作の改善は、入院中の排尿ケアでは難しいことが明らかになっています。下部尿路症状には、運動機能や、認知機能も影響するため、整形外科・脳血管障害患者では回復に時間を要し、急性期の入院中における排尿自立指導だけでは効果が乏しかったと考えられます。

また、脳血管疾患患者の在宅復帰の阻害要因の一つが排尿動作の自立の低さであることから回復期リハビリテーション病棟での継続的な排尿自立指導が重要です。急性期病棟から回復期リハビリテーション病棟への継続的な排尿自立指導を行うことで、入院前の排泄方法に改善でき、回復期リハビリテーション病棟の入院日数も短縮することが明らかになっており、急性期病棟と後方支援病棟・施設間、または外来まで切れ目のない排尿ケアが提供されることが重要であり、今後、当院でもさらに期待されます。

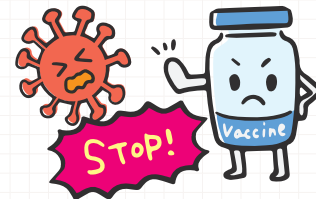


ワクチン

薬剤管理室 についての話

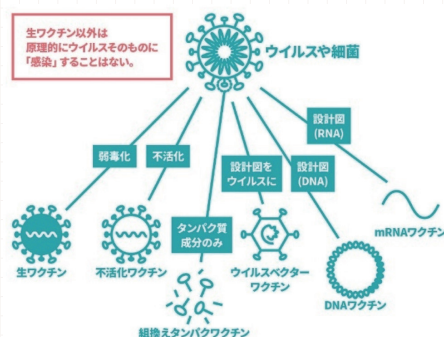
～ワクチンってなに?～

私たちの身の回りには、細菌やウイルスによって引き起こされるさまざまな感染症があります。これらを防ぐためにもっとも有効な手段が「ワクチン接種」です。ワクチンは、感染症の原因となるウイルスや細菌を精製・加工して、病原性を弱めたり無くしたりして、体にとって安全な状態にした医薬品です。本当にかかってしまう前にワクチンを接種して、その感染症に対する抵抗力を作っておくことが狙いです。



～どんなものがあるの?～

ワクチンには、作られ方によって《生ワクチン、不活化ワクチン、組換えタンパクワクチン、ウイルスベクターワクチン、DNAワクチン、RNAワクチン》があります。以下の図で、それぞれの特徴や、主な対象疾患・病原体について確認してみましょう。



生ワクチン	特徴 例	生きた病原体を弱めたもの。その病気に自然にかかった場合とほぼ同じ免疫力がつくことが期待されます。 結核・麻疹・風疹 水痘・おたふくかぜ・ロタウイルス感染症
不活化ワクチン	特徴	感染力をなくした病原体や、病原体を構成するタンパク質から出来ています。1回接種しただけでは必要な免疫を獲得・維持出来ないため一般に複数回の接種が必要です。
組換えタンパクワクチン	例	インフルエンザウイルス・A型肝炎・B型肝炎・百日咳・肺炎球菌・ジフテリア・ポリオ・破傷風・ヒトパピローマウイルス
ウイルスベクターワクチン	特徴	ウイルスを構成するタンパク質の遺伝情報を投与します。その遺伝情報をもとに、体内でウイルスのタンパク質を作り、そのタンパク質に対する抗体が作られることで免疫を獲得します。
DNAワクチン		
RNAワクチン		

予防接種法に基づき、日本で接種が進められてきた新型コロナワクチンには、mRNAワクチンであるファイザー社及びモデルナ社のワクチンのほか、ウイルスベクターワクチンであるアストラゼネカ社のワクチン(現在は接種が終了しています)がありました。令和4年(2022年)5月25日から、組換えタンパクワクチンである、武田社のワクチン(ノババックス)が加わりました。

～さいごに～

ワクチンは社会全体への流行を抑えて感染症の拡大を防ぎ、守る役割もあります。ワクチン接種に関する規定を守り、正しい時期に定められた予防接種を受けることで免疫を獲得し、実際に身の回りの様々な感染症から守られています。

もし、ワクチンに対する不安や、わからないことがありましたら、お気軽に医療スタッフへご相談ください。